

ベトナム地方圏を対象とした土地被覆分類図作成と土地被覆変化分析

平成 25 年 2 月 近藤 要平

要旨

目的

現在、東南アジアは中国をはじめとして高い経済成長を続けており、世界経済を牽引する役割を果たしている。その中で、近年中国に代わる投資先として注目されているのがベトナムである。本研究では、ベトナムの地方圏を対象として、1989 年、2001 年、2009 年の 3 ヶ年の土地被覆分類図を作成し、土地被覆の変化を分析することで、ベトナムの地方圏の発展過程を調べることを目的とした。

方法

ベトナムの紅河デルタの地方圏を対象に、地球観測衛星画像を用いたリモートセンシングにより、1989 年、2001 年、2009 年の 3 ヶ年の土地被覆状況を分析するため、まず土地被覆分類図の作成を行った。その手法として、ピクセルベース分類とオブジェクトベース分類という 2 種類の手法を用いて、対象地域に有効な分類手法を検討した。さらに、作成した 3 ヶ年の土地被覆分類図をオーバーレイして、土地被覆の変化を分析した。

結論

対象地域の 3 ヶ年の土地被覆分類図の作成を通して、全ての画像において、ピクセルベース分類よりもオブジェクトベース分類の方が分類精度は高く、視覚的にも分かりやすい画像を作成することができたことから、分類手法としてオブジェクトベース分類は有効であることが分かった。また、作成した土地被覆分類図を用いて土地被覆の変化を分析した結果、都市部近郊の幹線道路沿いに立地した工業区周辺に、都市化の傾向の強い地域が集中していることが分かった。このことから、本研究の対象地域である紅河デルタのハイズオン省周辺の地域では、幹線道路に沿った地域で農地から人工地への変化が著しく、急激な都市化が進んでいると考えられる。しかし、このような都市化の進展は環境悪化や地域格差、さらにインフラ不足といった様々な社会問題を引き起こす恐れがあり、安定的な経済成長のためには、都市部集中型の都市化から、周辺農村との一体的な発展を目指すことが重要であると考えられる。

指導教員 藤居 良夫 准教授